

伊賀市読書感想文コンクール審査結果

上野図書館では伊賀市読書感想文コンクールの作品を募集していましたが、市内の小・中学校、高校および一般の皆さんから合わせて265点の応募があり、その審査結果がまとまりました。

そこで、審査結果と特選作品を紹介します。(敬称略)

【問い合わせ】上野図書館 ☎21・6868

自分だけの幸せを探して



成和中学校3年

加藤久美子

この本を読み終えて、まず最初に頭の中に浮かんだのは「会いたい」という言葉だった。会いたい。山田かまち、この人に会って話したい。もっと彼の言葉が聞きたい。私の考えていることを聞いてもらいたい。そう思えてしかたがなかった。かまちの言葉は、そしてその中に含まれている喜びや哀しみは、私の内側に沈みこんでいて時々浮かんで消えてゆく感情の全てを表していた。私が心の中に溜めこんでいてうまく表せなかった気持ちを、この人はこ

んなにもすばらしい言葉にした。そのことに気づいた時、私はなんとも言えないような不思議な気持ちになった。かまちに会いたい、会って話したい——彼なら私がいつも疑問に思っていることや、誰にも言えなかった不安にもうまく答えてくれるような気がしたのだ。

でも、私はかまちに会うことができない。彼は今から二十八年前に、十七歳で亡くなっているのだから。数枚の写真と、たかさんの絵や文章。それが、今私が知ることので

きる「山田かまち」の全てだ。彼が何を思い、何を夢見て生きていたかを直接尋ねることは今の私にはできない。それでも何度もこの本を読み返すうちに、私は自分の求めていた答にたどりつく方法が、かまちが伝えたかったことが少しずつ見えてきたような気がする。

かまちの詩には「幸せ」という言葉がたかさんでてる。「幸せになりたい」人間はみんなそう願いながら生きているのではないだろうか。私もそうだ。幸せになりたいと思う。けれども幸せとは一体何なのだろう？ 幸せは目に見えない。触れることもできない。世界中の人たちの幸せがみんな同じ形をしていると

■審査結果

特選

【第1部】(高校生以上)
該当者なし

【第2部】(中学生)

加藤久美子(成和中3年)

【第3部】(小学生)

坂本 真帆(玉滝小2年)

新居 朋恵(久米小5年)

入選

【第1部】

松山 陽平(上野高1年)

高橋 晃子(西明寺)

西田 茂三(上野田端町)

福沢 義男(上野桑町)

【第2部】

北岡 沙彩(桃青中1年)

中森久美子(桃青中1年)

稲森 友紀(栢植中2年)

岡崎こころ(青山中2年)

浦川 莉江(大山田中3年)

河 実希(鳥ヶ原中3年)

平野 里奈(霊峰中3年)

【第3部】

岡森まり子(上野西小1年)

稲葉 真子(玉滝小1年)

市橋 日向(上野西小2年)

廣田 有璃(三田小2年)

猪上 舞(上野東小3年)

福森 一輝(依那古小3年)

喜多未久穂(依那古小3年)

島貫 頌大(青山小3年)

福井 花奈(花之木小4年)

隠岐 豪(鞆田小4年)

上村 皐月(上野西小5年)

古川摩里乃(長田小5年)

東瀬陽太郎(丸柱小5年)

廣田 有美(三田小6年)

藤山 雅士(依那古小6年)

松岡 千浪(古山小6年)

もかぎらない。「君はよく考えて自分の幸せをつかむんだ」これはかまちの言葉だ。幸せは与えられるものではなく自分自身でつくりだし、つかむもの。かまちは詩の中で何度もそう叫んでいた。考え方を少し変えれば、それはとても簡単なことだ。けれども、そのことに気づいていない人というのは結構たくさんいるのではないだろうか。私もその一人だったのだ。

「つらくいたたまれなく苦しくなったからといって老人の言うことを聞いていいのでしょうか。あなたは自分で自分のやり方を決定しなくてはいけないのです」私はかまちのこの詩を見た時、思わずどきりとした。自分が「幸せ」を外に求めていたことに気づいたのだ。まわりの目を気にして、ありのままの自分をだせずに過ごすうちに、私はいつのまにか他人が言う幸せの定義をうのみにして、それを自分の幸せだと思いこむようになっていた。けれどもそれはもちろん誰か私ではない人が考える幸せであって、私が自分でつくり出したものではないから、心のどこかでは「なぜ私はこうして

いるのだろうか」「もっと大切なことがある気がする」と思っていた。それが私の不安の原因だったのだ。

「自分に救いを求めよう。何か自分以外のものにすべて信頼しきっていたら、もしそのものが消えた時、君はだめになってしまふよ。」これがかまちの言葉だ。私は他人に救いを求めていた。用意されている道を歩くことに疑問を持っている道も、結局はその疑問や不安と向き合おうとせずまわりの価値観に身をゆだねることで自分をごまかしていた。幸せになりたいと思いがらも、自分にしかない幸せを探すことをやめてしまっていたのだ。

まわりに染められて生きることが必ずしも悪いことではないと思う。決められた道を進むことは楽だから。私は何から何まで一人で決められるような強い人間でもないから。それでも、大切なことは自分自身で見つけたと思う。自分だけの幸せを探したい。かまちは私に生きてゆくためのヒントをたくさんくれた。でも、そのヒントから答をつくり出すのは私自身にしかできないことなのだ。

「しまふくろう」を読んで



玉滝小学校2年

坂本 真帆

わたしは、この本を読んで、ふくろうのことをはじめて学びました。しまふくろうは、

ふくろうの中でも、一ばん大きいことがわかりました。ペーじいっぱい顔のしゃんがあって目玉のまわりが黄色で、くちばしにねずみをくわえて、こちらをむいてにらんでいるみたいだったので、わたしはびっくりしました。こんなにこわい顔をして体があんなに大きいなんてぜんぜんしりません。さむいほつかいどうにすんでいるから、見たことがなかったのかなあ。

雪の上に、ねずみの足あととしまふくろうのとび下りたあとがあったので、ねずみがしまふくろうにおそわれたことがわかりました。ねずみはかわいそうだし、しまふくろうはおそろしいなあ。でも、しまふくろうも生きていくた

めに食べるんだからしょうがないなあ。

おそろしいしまふくろうと思っただけ子どもをとてました。ひながかえると、おすは休むひまもなく、えものをとってはうろにはこびつづけるなんてすごいなあ。いっしょうけんめい子どもをふうふでそだてるんだなあ。人げんとよくにているなあ。わたしのおとうさんも、いっしょうけんめいしごとをして、とさきさきあそんでくれたりしてかわいがってくれます。

しまふくろうは、子どもがすだつときも木の上から見まもったり、えものとりかたやなきかたやとびかたを教えたりするそうです。一人前になるまでめんどうをしつかり見るなんてえらいなあ。人げんと同じだなあ。

わたしが一ばん心このこつ

たことは、えものをとるために一時間も、二時間もしんぼうよくまちつづけるといふことです。それに、ねらいをさだめてとびかかって、にげられてしまうこともあるけど、しつぱいしてもしつぱいしてもあきらめないで、何かいも何かいもえものをとりつづけようとするなんて、つよい心をもっているんだなあ。わたしは、ちよつこのことですぐあきらめてしまいます。しんぼうよくて、がんばるしまふくろうを見ならつて、くるしいこともがまんして、何でもがんばつていきたいです。がんばれば、できなかつたこともできるようになるからです。

わたしは、つよくて、子どもをだいにそだてるしまふくろうは、えらいなあ、すごいなあ、りっぱだなあとかんしんしました。そして、しまふくろうのふうふは、いつまでもはなれずにいっしょに生きていくつて、なかよしだなあと思えました。

わたしは、一ど、しまふくろうがすんでいるほつかいどりの森にいき、しぜんの中できもちよさそうにあくびをしたり、ゆつたりと森の中をと

んだり、魚をつかまえたり、ひなにえさをやったり、「ぼー、ぼー」「ぼーおっ」となきかわしたりしているすがたをせひ見てみたいです。

わたしは、いままでぜんぜんしらなかつたしまふくろうのことが、この本を読んでよくわかつて、とつてもよかつたです。

「私の心にめばえたもの」



久米小学校5年

新居 朋恵

杉原千畝さんは、第二次世界大戦の時のリトアニアの日本領事代理です。これは、千畝さんが迫害されたユダヤ人を救うため、外務省の命令にそむいて日本通過のビザを発給し、六千人のユダヤ人の命を救った話です。

その頃の日本はドイツと仲良くしていました。そのドイツには「ドイツ人こそが、もっとも優れた民族である」

くようになつていたそうです。公園は誰でも自由に遊べる所なのにどうしてだれも「ユダヤ人だけがいろんな権利を制限されるのはおかしい」と言わなかつたのでしょうか。

ある日の朝、領事館の前を人の群れがびつしりとうめました。ポーランドからやってきたビザの発給を求めるユダヤ人でした。その中には、お父さんの手をしっかりとにぎつた小さな子どももいました。その姿を千畝さんの家族は、領事館の中から見つめ、気の毒に思い助けてあげようと話し合いました。ユダヤ人と日本人、領事館の中と外のちがいはあつても、苦しいと感じる事や人をあわれむ気持ちを持つ同じ人間同士なんだとうれしくなりました。

けれども、日本の外務省からビザを出してはいけないと命令されてしまいました。千畝さんは悩みますが「目の前にいる困っている人たちを助けてあげたい」と自分の気持ちに正直になつて命令にそむくことにしました。そしてリトアニアを去る日までの一ヶ月間、毎日、食事をする間もおしんで、ビザを発給し続け

ます。千畝さんが書くビザ一枚で一人の命が助かるなんて、まるで魔法のペンみたいです。自分がひどい目にあうかもしれないのに、相手の事を一番に考えて行動するなんてとても勇気があると思えます。

「私たちはこういうことをするために、神につかわされたのではないかしら」と千畝さんの家族は感じていました。私もそう思います。千畝さんは見えない力でユダヤ人を助ける役割を背おい、六千人のユダヤ人を助けました。私にも、人と人をつなぐかけはしのような役割があるのかなあと思えました。そして将来、千畝さんのような役割が担えるきっかけに出会いたいと思います。

今、ユダヤ人の住むイスラエルのヤド・バシエムに『記憶せよ、忘るるなかれ』という言葉がきざまれています。私も忘れません。自分が一番だとユダヤ人を迫害した人がいた事を。ユダヤ人を救うために、命をかけた千畝さんの事を。そして、この本を読んだと、いろんな場でのいろんな人たちと出会つて、自分の役割を見つけたと思つた事を。

図書館だより

Library Information



上野図書館	上野丸之内40-5	☎21-6868
西柘植公民館図書室 (ふるさと会館いが内)	下柘植6243	☎45-9122
島ヶ原公民館図書室 (島ヶ原会館内)	島ヶ原4739	☎59-2058
阿山公民館図書室 (あやま文化センター内)	川合3370-29	☎43-0154
大山田公民館図書室 (大山田農村環境改善センター内)	平田650	☎47-1175
青山公民館図書室 (青山公民館内)	阿保1411	☎52-1110

上野図書館所蔵図書から「江戸時代の辞典」展

学生の必需品。一般家庭でも辞典は本棚に並んでいます。今回は上野図書館貴重資料庫から、江戸時代に出版された辞典を紹介します。

津市出身の国学者谷川士清たにがわことすがが作成した本格的な五十音順の辞典である「和訓栞わくんのしおり」も展示します。

- 【期 間】 1月5日(木)～3月30日(木)
 【開館時間】 午前9時～午後5時
 【休館日】 毎週月曜日および図書整理日
 【場 所】 上野図書館 2階 展示コーナー
 【展示図書】 「新撰字鏡しんせんじきやう」「倭名類聚抄わみょうるいじゆつしやう」「和訓栞」など10種類

1月の絵本の時間

13日(金)
午前10時～ 1時間程度
ふるさと会館いが小ホール

1月のおはなしの会

14日(土) 小さい子むき
28日(土) 大きい子むき
午後2時～ 30分程度
上野図書館 2階視聴覚室

☆絵本の読み聞かせ、紙芝居や手遊びなどをします。



新着図書紹介 (上野図書館)

■一般書

伝記『告白』 チャールズ・R・ジェンキンス/著

韓国駐留の米軍兵だった彼が北朝鮮へ渡った理由、曾我ひとみさんとの出会い、拉致の実態…沈黙をやぶり、すべてを明らかにしたノンフィクション。

読書『作家の読書道』 Web本の雑誌/編

みなさん、いったいどんな本を読んで、作家になったんですか？

伊坂幸太郎、角田光代、唯川恵、横山秀夫…現在もっとも気になる作家たち、総勢30名が語るそれぞれの読書遍歴。ブックガイドとしても楽しめます。

■児童書

えほん『まんげつによるに』 木村裕一/さく・あべ弘士/絵

映画にもなった大人気のシリーズ『あらしによるに』の続編です。オオカミのガブとヤギのメイ、二人のひみつの友情のゆくえが描かれています。

飼育『超カワイイ！こいぬのココロをチェック！』 佐々木江利子/文・杉山薫里/イラスト

子犬とはじめて出会ったら？散歩って、どんなふうにつれてってあげたらいいのかな？きげんが悪そうだったら、どうしたらいい？子犬と楽しくくらしたい、あなたのための一冊です。子犬の写真もたくさんあって、見ているだけでも楽しめます。